

POWERED SUBWOOFER

DXS18
DXS15 mkII
DXS12 mkII

取扱説明書

- この取扱説明書では、主にDXS18を使って説明しています。
- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

はじめに

このたびは、パワードサブウーファー DXS18、DXS15mkII、DXS12mkII(以下DXS)をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本製品は、ライブSRや仮設を含む音響設備で使用するパワードサブウーファーです。この取扱説明書では、ライブハウスや仮設PAなどでより豊かな低音域を再生するためにサブウーファーを使用するときの設置や使用方法を説明しています。本製品のさまざまな機能を十分に活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管してください。

付属品

- 電源コード
- 取扱説明書(本書)
- 3芯-2芯変換プラグ
- Technical Specifications(スペックシート、英文)

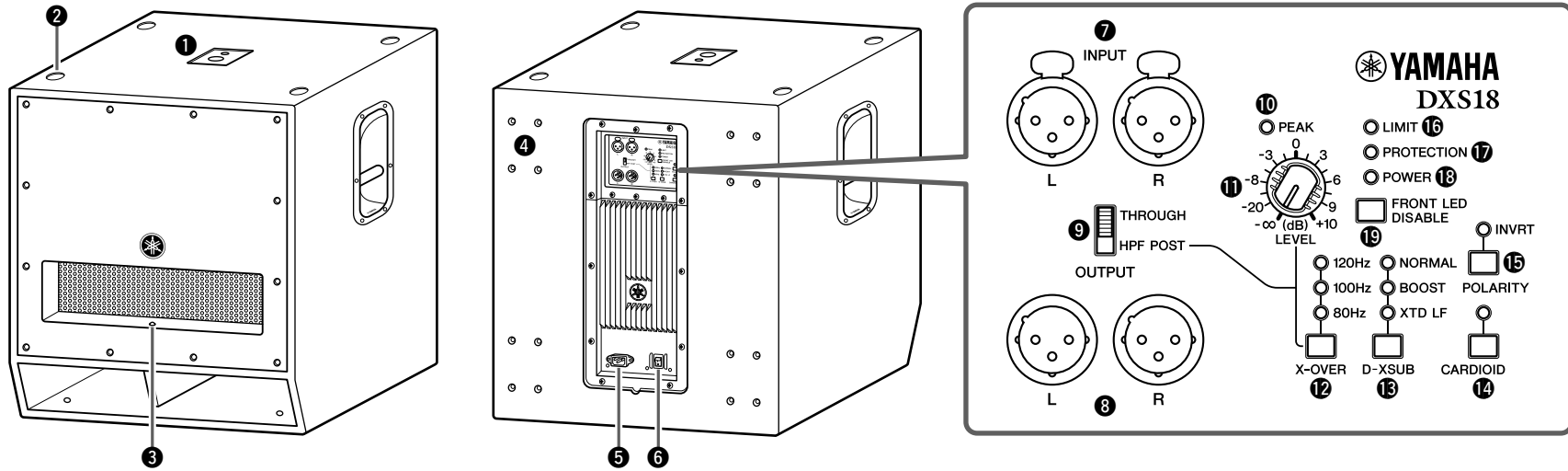
特長

- ハイパワー、高音圧、優れた低域再生能力**
高音圧に有利なバンドパス方式を採用。高耐入力、低歪みのウーファー、1,020 Wのパワーアンプを搭載し、優れた低域再生能力と高音圧を達成。
- 最適な音づくりのための優れた機能**
 - D-XSUB**：再生周波数帯域をDSPでコントロール。さまざまな用途や音楽ジャンルに適した設定が選択可能。
 - 選択可能なX-OVER**：カットオフ周波数やLPF/HPFの運動/非運動が選択可能で、さまざまなアプリケーションに柔軟に対応可能。
 - カーディオイドモード**：低域の指向性をコントロールし、スピーカー後方への音圧を減少させ、前方への音圧を増幅させることが可能(DXSが2台以上必要)。
- 高音質性**
高性能DSP制御でスピーカーとアンプを保護。厳しい環境下でも安心して使用可能。
- 高耐久性**
キャビネットの素材には堅牢な合板を、塗装には高い対傷性を誇るポリウレタン樹脂を採用。
- 使い勝手の良さ**
φ35 mmとM20の両方に対応するデュアルボールソケットを装備。可搬性を高めるキャスター(オプション)を装着可能。

オプション品

- スピーカーカバー SPCVR-18S01(DXS18用)、SPCVR-DXS152(DXS15mkII用)、SPCVR-DXS122(DXS12mkII用)
- キャスター SPW-1(4個入り)

各部の名称と機能



- 1 ボールソケット**
市販品の35 mm径またはM20ネジのスピーカーボールに対応しています。取り付け方法は「スピーカーボールの取り付け」をご参照ください。
- 2 ゴム脚受け**
DXSを縦積みする場合は、上に積んだDXSのゴム脚を、このゴム脚受けに合わせてください。

注意
DXSを3台以上縦積みしないでください。

- 3 フロントLED**
電源がオンのときに点灯します。出力リミッターが作動すると、より明るくなります。FRONT LED DISABLEスイッチ(16)で常に消灯することもできます。

- 4 キャスター取り付け穴**
オプションのキャスター SPW-1を取り付けることができます。取り付け方や注意事項については、キャスターの取扱説明書をご参照ください。

- 5 AC IN端子 (V-Lock)**
付属の電源コードを接続します。電源コードはラッチによるロック機構を備えています。最初にDXSと電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。取り外すときにはラッチを押しながら外してください。

注意
電源コードを接続したり、取り外す前に必ず電源をオフにしてください。

- 6 電源スイッチ**
この機器の電源をオン(1)/オフ(0)します。複数の機器を使う場合は、1台ずつ電源をオンにしてください。同時に複数の電源をオンにすると電源電圧低下などで機器が正常に起動しないことがあります。電源のオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。電源をオフしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。

注意
電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

- 7 INPUT端子**
XLRタイプのバランス型入力端子(ラインレベル)です。本体スピーカーからは、LとRからの入力信号をミックスして出力します。
- 8 OUTPUT端子**
XLRタイプのバランス型出力端子です。フルレンジスピーカーや追加のDXSを接続します。THROUGH/HPF POSTスイッチ(9)で出力する信号を切り替えます。OUTPUT端子のL/R出力は、INPUT端子のL/R入力それぞれに対応しています。L/Rのミックスは出力しません。
- 9 THROUGH/HPF POSTスイッチ**
OUTPUT端子(8)から出力する信号を切り替えます。

注意
切り替える際は入力レベルを下げてください。

- THROUGH**：INPUT端子(7)から入った信号をそのまま出力します。接続したフルレンジスピーカーのHPFを使用する場合やDXSを追加して接続する場合に使用します。
- HPF POST**：INPUT端子(7)から入った信号をHPF(ハイパスフィルター)を通してから出力します。HPFのカットオフ周波数は、X-OVERスイッチ(12)で選択した周波数になります。OUTPUT端子から出力するレベルはLEVELコントロール(11)と連動するため、本機とフルレンジスピーカーのレベルが同時に変化します。
- 10 PEAKインジケーター**
入力レベルがクランプする3 dB手前で赤く点灯します。頻繁に点灯する場合は、入力信号の最大時に一瞬点灯する程度まで入力元の音量を調節するかLEVELコントロール(11)を下げてください。
- 11 LEVELコントロール**
出力レベルを調節します。
- 12 X-OVER(クロスオーバー)スイッチ**
クロスオーバー周波数を120 Hz/100 Hz/80 Hzから選択します。本機の出力には、選択した周波数以上の音域をカットするLPF(ローパスフィルター)がかかります。THROUGH/HPF POSTスイッチ(9)をHPF POSTにした場合、OUTPUT端子からの出力信号に選択した周波数以下の音域をカットするHPF(ハイパスフィルター)がかかり、接続したフルレンジスピーカーとのクロスオーバーが連動します。

- 13 D-XSUB(ディーエックスサブ)スイッチ**
低域の特性を切り替えます。
 - NORMAL**：汎用の設定で、さまざまな用途に対応します。
 - BOOST**：パンチ感を強調する周波数帯域をブーストした設定です。
 - XTD LF(eXTenDed LF, エクステンデッドLF)**：より低い低域まで再生周波数を伸ばした設定です。

- 14 CARDIOID(カーディオイド)スイッチ**
DXSを複数台使うと、カーディオイドモードで使用できます。カーディオイドモードとスイッチの使用方法については、裏面の「カーディオイドモードのセットアップ」をご参照ください。

- 15 POLARITYスイッチ**
本機の極性を正相か反転か切り替えます。反転時はINVRTインジケーターが点灯します。通常は正相で使用しますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、反転で使用する方が低音域の再生が良好になることがあります。より良好に低音域を再生する方を選んでください。

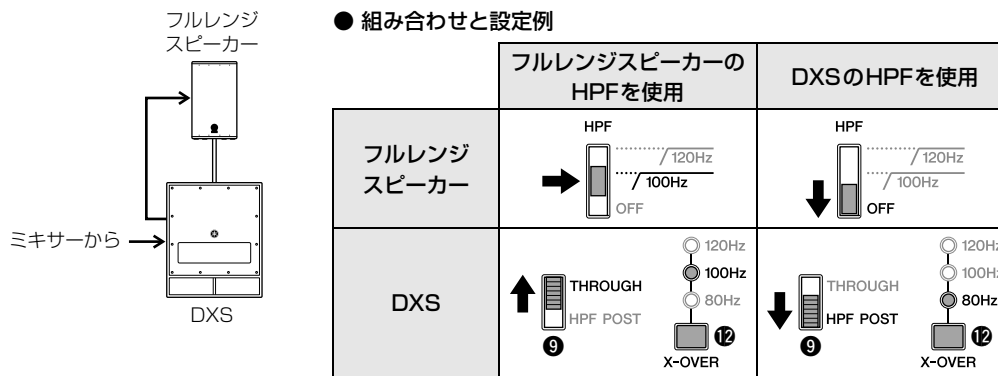
- 16 LIMITインジケーター**
出力リミッターが作動すると点灯します。出力リミッターは、スピーカー部とアンプ部を保護するために作動し、出力信号を減衰します。頻繁に点灯する場合は、入力信号の最大時に時折点灯する程度まで入力元の音量を調節するかLEVELコントロール(11)を下げてください。
- 17 PROTECTIONインジケーター**
保護回路が作動しているときに点灯します。以下の場合に保護回路が作動し、スピーカー出力をミュートします。
 - アンプ部の過熱を検出した場合
 - 過電流を検出した場合
 - 電源をオンにした直後(ノイズ防止のため保護回路が作動し、約2秒間点灯します。正常に起動するとインジケーターが消灯します。)

- 18 POWERインジケーター**
電源がオンのときに点灯します。
- 19 FRONT LED DISABLEスイッチ**
本機正面にあるフロントLEDの点灯、消灯を切り替えます。スイッチがオフのときLEDが点灯します。LEDを消灯したい場合は、スイッチをオンにしてください。

基本的なセットアップ

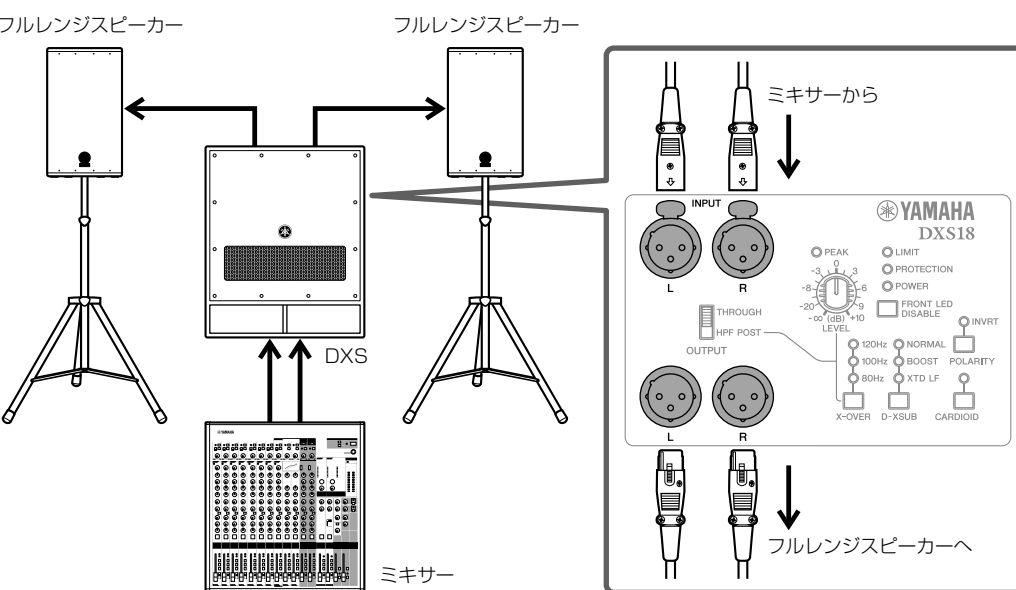
ミキサーなどの音源からの出力信号をDXSのINPUT端子に入力し、DXSのOUTPUT端子からの出力信号をフルレンジスピーカーの入力端子に入力します。

- X-OVERスイッチ(12)**
DXSのクロスオーバー周波数(LPFのカットオフ周波数)とフルレンジスピーカーのHPFのカットオフ周波数を一致させることをおすすめします。DXSとフルレンジスピーカーから同じ帯域の音が出力されると、相互に干渉を起こして周波数特性が悪くなる場合があります。
- THROUGH/HPF POSTスイッチ(9)**
フルレンジスピーカーに適切なHPFがある場合は[THROUGH]に設定することをおすすめします。独立してレベルをコントロールでき、信号の遅延も最小限に抑えられます。フルレンジスピーカーにHPFがない場合やカットオフ周波数を揃えられない場合は、[HPF POST]にしてDXSのHPFを使用してください。



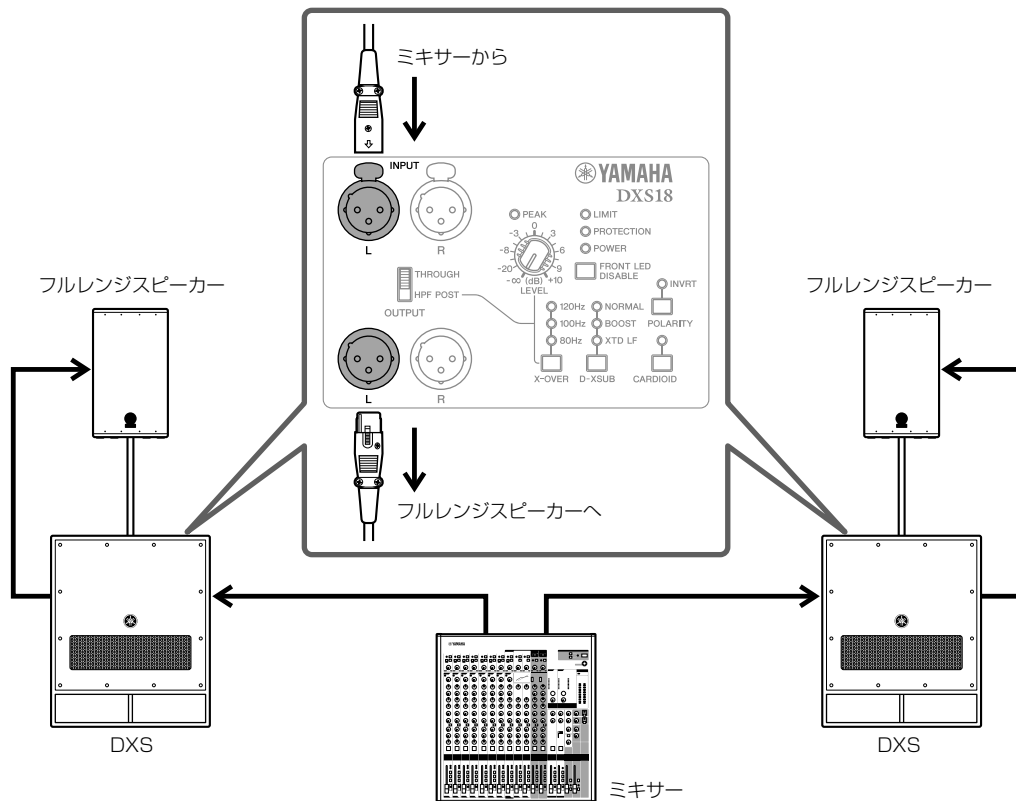
注意
パワードスピーカーを数珠つなぎに複数台接続している場合は、音源に近い機器から電源を入れ、音源に近い機器から電源を切ってください。

DXSをモノラル、フルレンジスピーカーをステレオにする組み合わせ



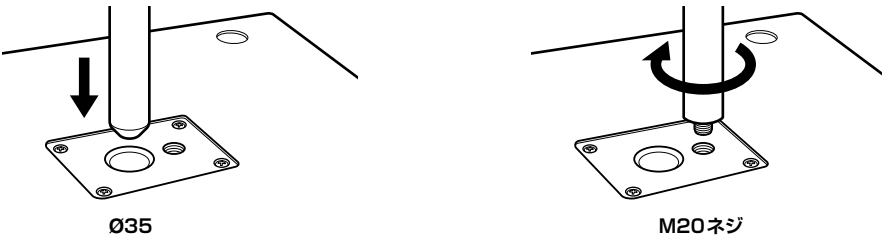
DXSとフルレンジスピーカーをどちらもステレオにする組み合わせ

NOTE
DXSのL/Rの端子は、どちらを使用してもDXSの動作に違いはありません。



スピーカーボールの取り付け

上にフルレンジスピーカーを乗せるためのボールソケットです。ボールソケットは35 mm径またはM20ネジの市販のスピーカーボールに対応しています。使用時は、必ず以下の条件を守るようにしてください。

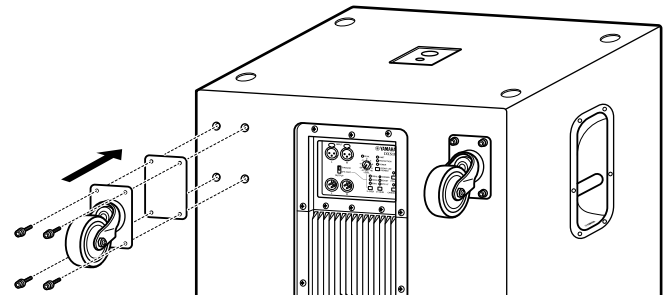


品番	上に乗せるスピーカー	ボールの長さ
DXS18	重量28.0 kg以下、高さ76 cm以下(DSR115)	120 cm以下
DXS15mkII	重量19.3 kg以下、高さ61 cm以下(DXR12)	100 cm以下
DXS12mkII	重量14.6 kg以下、高さ51 cm以下(DXR10)	82 cm以下
	重量13.5 kg以下、高さ46 cm以下(DXR8)	90 cm以下

キャスターの取り付け

DXSの背面にオプションのキャスター SPW-1を取り付けることで運搬が容易になります。キャスターの取り付けには、DXS本体に取り付けてあるネジを取り外して使用してください。ネジを外したまま使用しないでください。エア漏れにより音質に悪影響を及ぼします。

注意
キャスターの取り付け方や注意事項については、キャスターの取扱説明書をご参照ください。
SPW-1以外のキャスターを取り付けしないでください。



困ったときは

症状	考えられる原因	対策方法
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく接続してください。
突然電源が切れた。	保護回路が作動して、電源がシャットダウンした。	いったん電源をオフにし、アンプの熱が下がるのを待ってから、もう一度電源をオンにしてください。
音が出ない。	ケーブルが正しく接続されていない。	INPUT端子に正しく接続してください。
突然音が途切れた。	保護回路が作動して、出力がミュートしている。	アンプの熱が下がるまでお待ちください。自動復帰しない場合は、いったん電源をオフにし、もう一度電源をオンにしてください。
ハウリングする。	マイクがスピーカーに向いている。	マイクが音を拾う範囲からスピーカーを離してください。
各スピーカーの音が違う。(複数台使用時)	スピーカーの設定が異なる。	各スピーカーのスイッチの設定をすべて同じにしてください。
音が歪む。	入力が過大である。	PEAKインジケーターが時々点灯するレベル以下になるまで入力機器側のボリュームを下げてください。
	出力が過大である。	LIMITインジケーターが時々点灯するレベル以下になるまでLEVELコントロールで出力レベルを下げてください。

* 上記の対策を実施しても症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター(裏面)にお問い合わせください。

主な仕様

仕様	DXS18	DXS15mkII	DXS12mkII
形式	バンドパス型パワードサブウーファー		
再生周波数帯域(-10 dB)	32 Hz~120 Hz	40 Hz~150 Hz	42 Hz~150 Hz
最大出力音圧(実測値ピーク)	136 dB SPL	135 dB SPL	134 dB SPL
ピンクノイズ@1 m、2π空間	1020 W	800 W	100 W
パワーアンプ	定格出力	ダイナミック	
	連続		
消費電力(1/8出力)			
コンポーネント	LF	18"コーン、4"ボイスコイル	15"コーン、2.5"ボイスコイル
寸法 mm(幅×高さ×奥行き、ゴム足含む)	563×683×721	480×611×614	400×567×570
質量	49.7 kg	36.0 kg	30.0 kg
ハンドル	スチール製、側面×2		
ボールソケット	φ35 mm(深さ80 mm)、M20(ネジ深さ25 mm)		
コネクター	入力	XLR3-31×2	
	電源	XLR3-32×2(THROUGHまたはHPF POST)	
入力感度(LEVEL: センター)	+10 dBu		
最大入力レベル	+24 dBu		

* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

カーディオイドモードのセットアップ

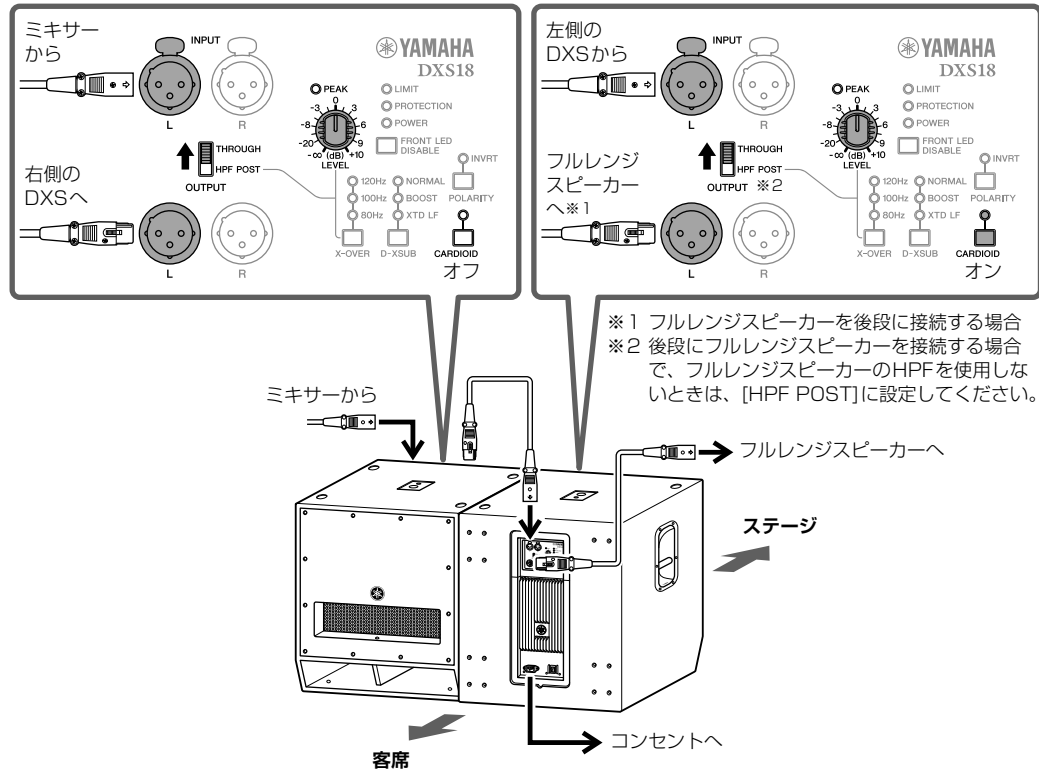
低音域は指向性が弱いので、サブウーファーからの出力は客席側だけでなくステージ側にも同程度の音圧で回り込みます。カーディオイドモードを使用すると、客席側への低音は足し合わされ、ステージ側への低音は打ち消し合います。ステージ側の音量を上げてハウリングマージンを大きく取ることができるため、客席側により大きく低音を出すことができるようになります。

NOTE

- DXSは同じ機種を使い、同じ信号を入力してください。OUTPUT端子を[THROUGH]に設定して数珠つなぎにして使うこともできます。
- カーディオイド特性を効果的に得るためには、キャビネットは壁などから1.2 m以上離して設置してください。

2台を横に並べた配置

前後の向きを互い違いに配置します。客席を向いているDXSのCARDIOIDスイッチをオフ、ステージを向いているDXSのCARDIOIDスイッチをオンにします。それ以外の設定(LEVEL、POLARITY、X-OVER)は同じにしてください。



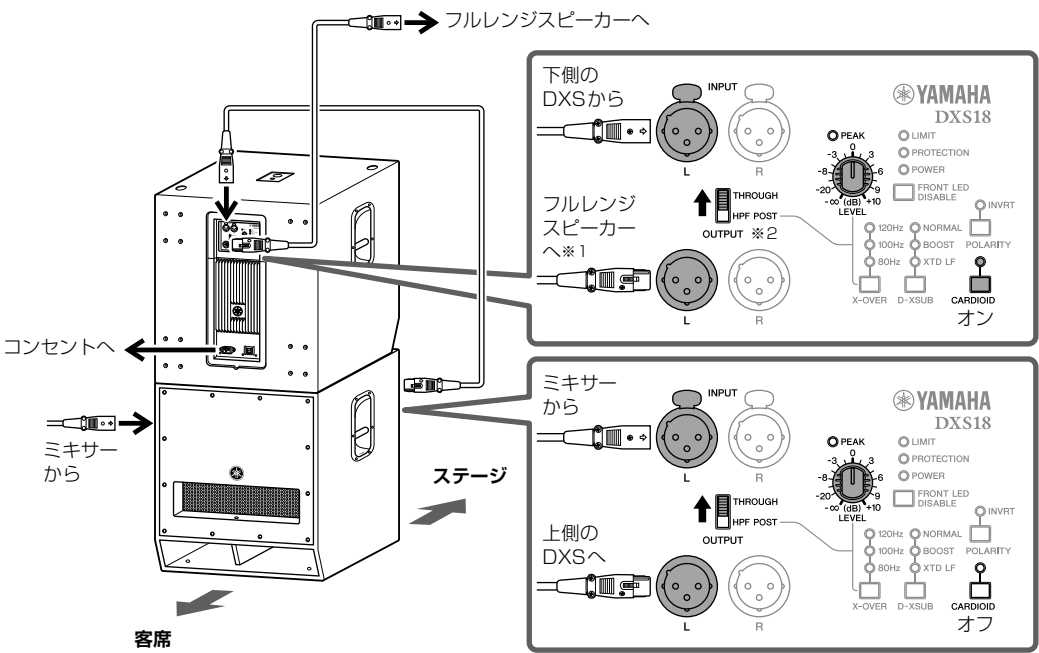
※1 フルレンジスピーカーを後段に接続する場合
※2 後段にフルレンジスピーカーを接続する場合で、フルレンジスピーカーのHPFを使用しないときは、[HPF POST]に設定してください。

2台を縦積みした配置

2台のDXSを縦積みしてカーディオイドモードのシステムを構成することもできます。ステージを向いているDXSのCARDIOIDスイッチをオンにしてください。それ以外の設定(LEVEL、POLARITY、X-OVER)は同じにしてください。

注意

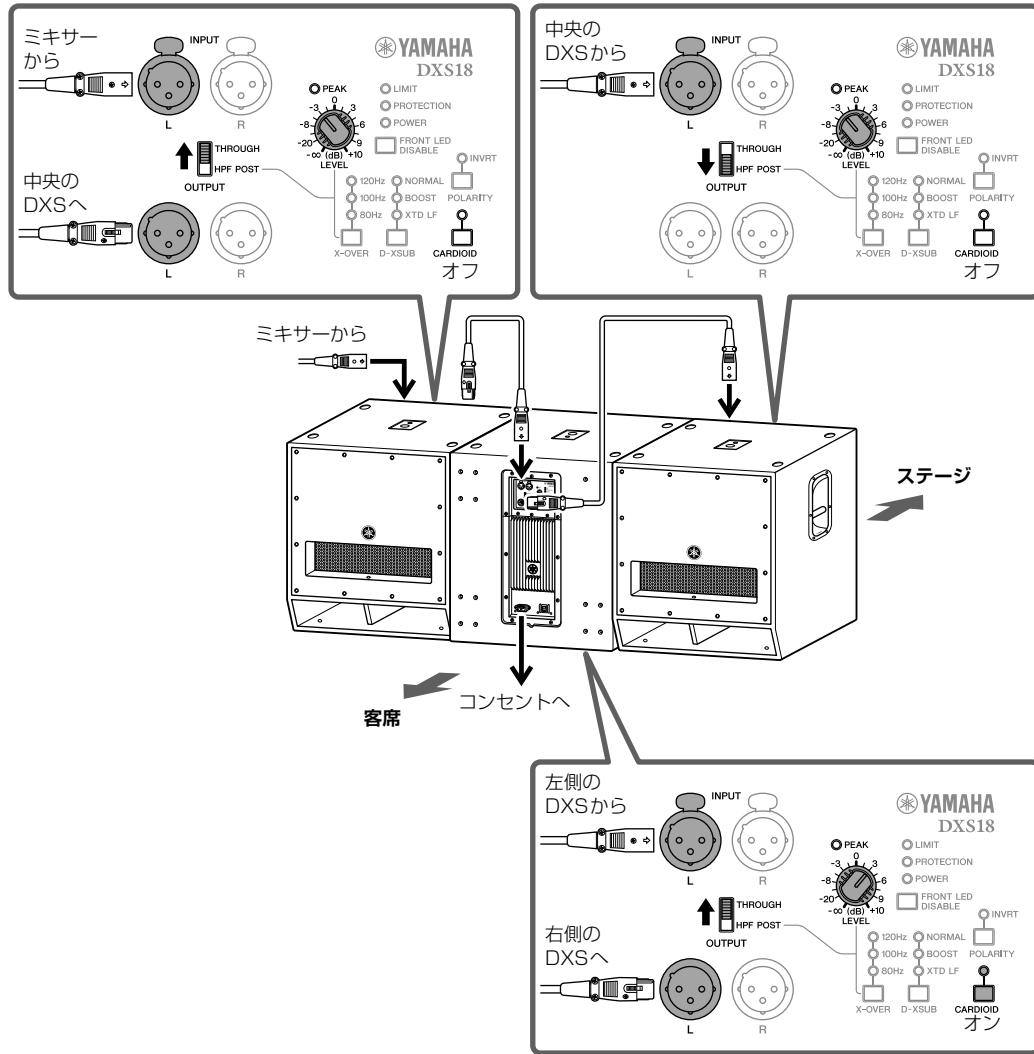
- DXSを縦積みする場合、転倒しないようにご注意ください。
- 上段のDXSのゴム脚を、下段のDXSの天面にあるゴム脚受けに合わせて設置してください。
- DXSを2台縦積みした上に物(フルレンジスピーカーや他のDXSなど)を載せたり、スピーカーポールを挿したりしないでください。



※1 フルレンジスピーカーを後段に接続する場合
※2 後段にフルレンジスピーカーを接続する場合で、フルレンジスピーカーのHPFを使用しないときは、[HPF POST]に設定してください。

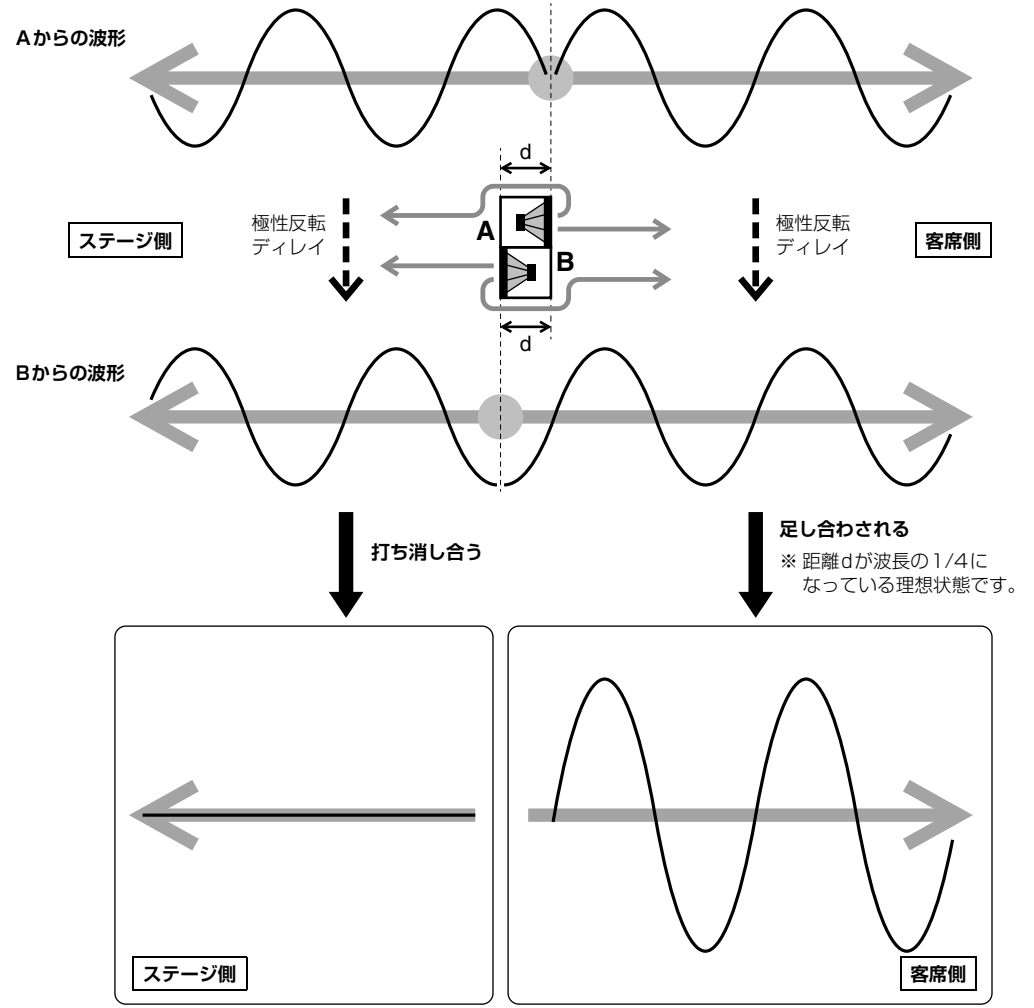
3台を横に並べた配置

ステージを向いているDXSのみCARDIOIDスイッチをオンにします。客席を向いている2台のレベルは同じにしてください。ステージを向いているDXSのレベルは、客席を向いているDXSより6 dBを目安に上げてください。

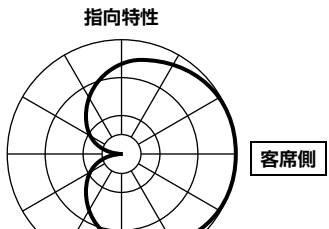


カーディオイドモードの仕組み

客席を向いているスピーカー(A)とステージを向いているスピーカー(B)の音源間の距離をdとします。Bからは、極性を反転し距離dに相当するディレイをかけた音を出します。



ステージ側では音が打ち消し合い、客席側では音が足し合わされます。この組み合わせの指向特性は右のポリパターンようになります。この形が心臓の形に似ていることから、カーディオイドモードと呼ばれています。



安全上のご注意

ご使用前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご利用いただき、お客様やほかの方々や財産や財産を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保存してください。

「警告」と「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味が想定されています。

- 注意喚起を示す記号
- 禁止を示す記号
- 行為を指示する記号

この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

警告

死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される内容です。

電源/電源コード
電源コードが破損するようなどくをしない。
* ストーンなどの熱源器具に近づけない
* 無理に曲げない
* 傷つけない
電源コードに重いものをのせない
感電や火災の原因になります。

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用します。誤って接続すると、感電や火災の原因があります。

電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。
故障、発熱、火災などの原因になります。
付属の電源コードは日本国内専用(125Vまで)です。

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取ります。
感電や火災、故障の原因があります。

この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグが容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。電源プラグに容易に手が届き、操作できるように設置してご使用ください。

長期使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

接続
* 接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行う。
* 接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行う。
電源コードには、アース線が付いています。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。
確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

分解禁止
この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造してはなりません。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

水に注意
* この機器の上面に花びらや薬品など液体の入ったものを置かない。
* 浴室や雨天時の屋外など湿気が多いところで使用しない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

聴覚障害
大きな音量で長時間この機器を使用しない。
聴覚障害の原因になります。

火に注意
この機器の近くで、火気を使用しない。
火災の原因になります。

異常に気づいたら
下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
* 電源コード/プラグがいたんだ場合
* 製品から異常なにおいや煙が出た場合
* 製品の内部に異物が入った場合
* 使用中に音が出なくなった場合
* 製品に亀裂、破損がある場合
そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意

「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

設置
不安定な場所に置かない。
この機器が転倒して故障したり、けがをしったりの原因になります。

この機器を設置する際は、* 天面以外を上にして設置しない。
* 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。
機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。背面にあるアンプのヒートシンクの周囲に上30 cm、左右30 cm、背面30 cm以上のスペースを確保してください。

スピーカーをつり下げるためにスピーカーのハンドルを使用しない。
スピーカーが落下して破損したり、けがをしったりの原因になります。

スピーカーの底面を持って運搬しない。
スピーカーの底面に手を添えて、けがをしったりの原因になります。

スピーカーのリアパネルを壁に押しつけない。
スピーカーを壁に押しつけたときに、プラグが壁に接触し、電源コードが外れてショートしたりして故障や火災の原因になることがあります。

地震や高気圧ガスが発生する場所に設置しない。
故障の原因になります。

この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行う。
ケーブルをいたためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。

この機器を持ち運ぶ場合は、必ず3人以上で行なう。
この機器を2人以下で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この機器が落下して破損したり、けがをしったりする原因になります。

ポールソケットを使って上にスピーカーを載せる際は必ず「スピーカーポールの取り付け」の条件を守ります。
この機器が転倒して破損したり、内部の部品を傷ついたり、けがをしったりする原因になります。

お手入れ
この機器をお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電の原因になることがあります。

取り扱い
この機器のポート(前面の穴)に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。

この機器のポート(前面の穴)から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上でお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
この機器が破損したり、けがをしったりする原因になります。

音がはずんだ状態ではこの機器を使用しない。
機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

接続されたケーブルを引っ張らない。
接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしったりする原因になります。

PA-8

記載されている機能/データに関するお知らせ
製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ
* この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

取扱説明書の記載内容に関するお知らせ
この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
* 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

廃業に関するお知らせ
この製品は、リサイクル可能な部品を含んでいます。廃業される際には、廃業する地方自治体にお問い合わせください。

保証書

持込修理		保証書	
品名	パワードスピーカーシステム	店名	
※品番		所在地	
※シリアル番号		店名	
保証期間	本体 お買い上げの日から1ケ年間	所在地	
※お買い上げ日	年 月 日	店名	
お客様	□□□□□□□□	所在地	
ご住所		店名	
お名前		所在地	
電話	()	店名	
ご販売店様へ	※印欄は必ずご記入ください。	店名	

本書は、本書記載内容で無償修理を行うをお約束するものです。お買い上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。この依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)を合わせてご提示ください。(詳細は下項をご覧ください)

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX箱崎ビル1F
TEL. 03-5652-3850

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態(取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意事項に従った使用状態)で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買い上げ販売店にご依頼ください。
- ご購入後、ご届後の修理についてお買い上げの販売店にご依頼ください。保証期間内に故障して無償修理を受ける場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買い上げ販売店にご依頼ください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
(1) 本書のご提示がない場合。
(2) 本書にお買い上げの年月日、お客様、お買い上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
(3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
(4) お買い上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
(5) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、損害、異常気圧などによる故障及び損傷。
(6) お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

* この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものではありません。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、ヤマハ修理ご相談センターにお問合せください。

* ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報等は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。

* その他この連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

0570-050-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**
受付 月曜日～金曜日 11:00～18:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
FAX 03-5652-3634
オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/support/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

0570-012-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**
FAX 03-5762-2125 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)
06-6649-9340 西日本 (北陸/近畿/四国/中国/九州)

修理品お持ち込み窓口
東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンパ(辻本ニッセイビル)7F
FAX 06-6649-9340

受付時間
月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

●損害に対する責任

この製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

●販売元

(株)ヤマハミュージックジャパン PA 営業部
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12
KDX 箱崎ビル1F

●名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

ヤマハプロオーディオウェブサイト:
<https://www.yamaha.com/proaudio/>

ヤマハダウンロード:
<https://download.yamaha.com/>

ASCAMPAMPCCAG

Manual Development Group
© 2017 Yamaha Corporation

2018年5月 改訂 YJMAW-B0